



## MENU

1. 採血管準備システムを開始しました
2. 診療前検査の検体到着から結果報告まで ～尿検査編～
3. KL-6は、診療前検査にて検体提出後45分で結果報告できます
4. 原因不明の血小板数低値の時は、偽性EDTA依存性血小板減少症を疑ってください

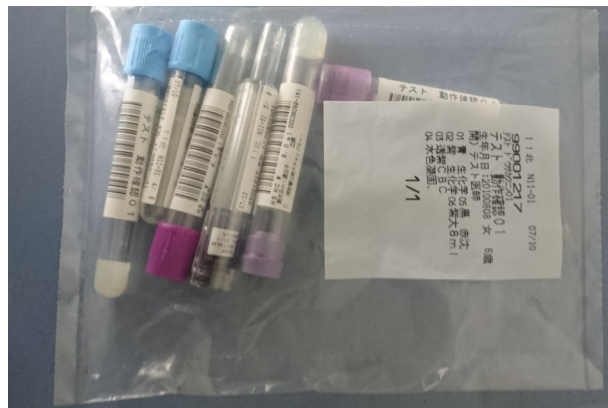
## 1. 採血管準備システムを開始しました

採血管へのラベルの貼り間違えによるインシデントを軽減する目的で、9月4日より運用を開始しました。使用頻度の高い11種類の採血管が対象となっています。詳細は、電子カルテ「SMILE」→「検査部」→「検査部よりお知らせ」→「第66号 採血管準備システム稼働開始」をご参照ください。

対象：15時までに入力された翌日オーダー

準備：自動ラベル貼付装置による採血管へのラベル貼りと袋詰め

配布：15時30分以降に、検査部の専用棚へ取りに来て下さい

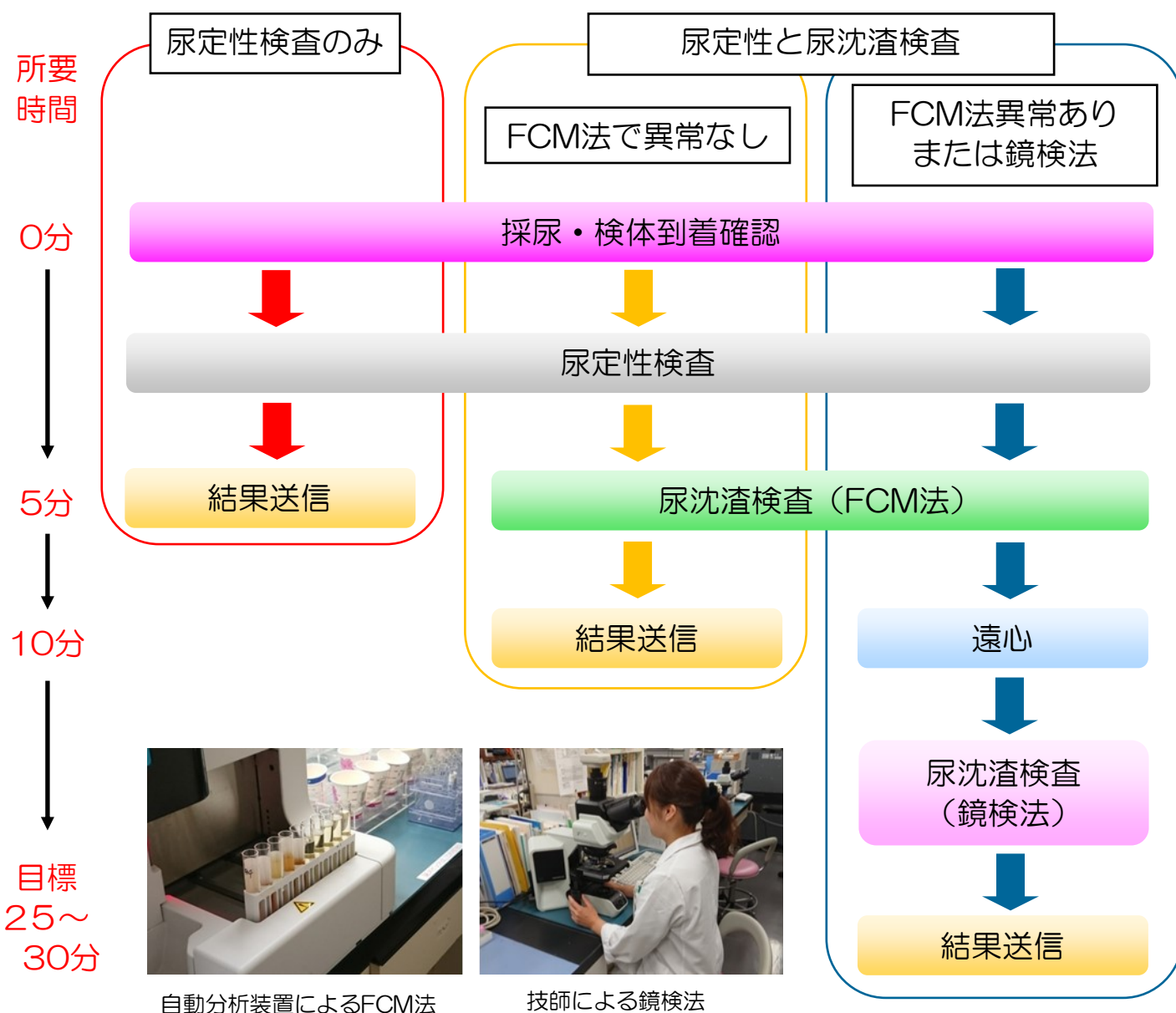


お問い合わせ：副部長室 内線36520

## 2. 診療前検査の検体到着から結果報告まで ～尿検査編～

尿検査の診療前検査として、色調、比重、潜血などを調べる「尿定性検査」と、赤血球、白血球、上皮細胞などを検索する「尿沈渣検査」の2つがあります。尿沈渣検査は、さらに自動分析装置が判定する「FCM法」と技師が目視で確認する「鏡検法」に分かれています。通常は5～10分と迅速な報告が可能ですが、FCM法で異常がみられた場合や鏡検法の場合には25～30分の時間を要します。

尿定性・尿沈渣検査の結果報告までの流れ

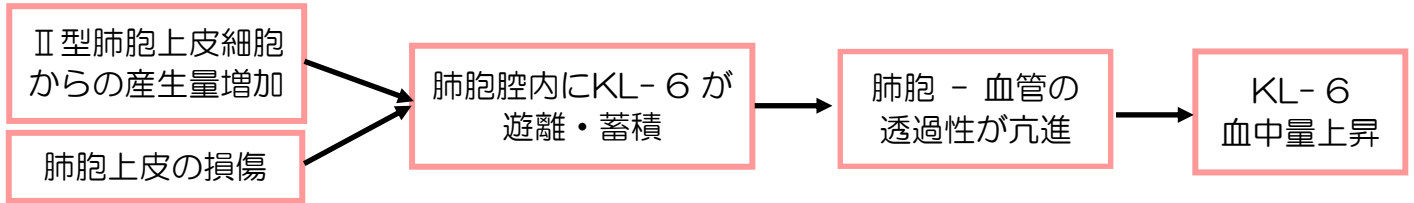


お問い合わせ：尿検査室 内線36490

### 3. KL-6は、診療前検査にて検体提出後 45分で結果報告できます

KL-6（シアル化糖鎖抗原）は、間質性肺炎のバイオマーカーの中で、感度・特異度が最も高く、線維化病巣とも強く関連します。当院でも、昨年より外部委託から院内検査へ導入し、診療前検査として利用可能となっています。間質性肺炎を疑う際には、ぜひ血中KL-6を測定下さい。

#### 血中KL-6の増加メカニズム



KL-6は肺のII型肺胞上皮細胞から産生されます。間質性肺疾患における血中KL-6量の上昇は、その障害や産生増加を反映します。

- ▷ 血中KL-6は、健常者や細菌性肺炎では、ほとんど上昇しません。
- ▷ 特発性間質性肺炎で陽性率が70～100%と高く、急性増悪の診断、治療効果の判定や予後予測に有用です。1,000 U/mL以上の場合は予後不良とされています。
- ▷ 特発性肺線維症、過敏性肺炎、サルコイドーシス、膠原病関連間質性肺炎などの疾患活動性のバイオマーカーとしての有用性が報告されています。

#### 間質性肺炎

肺胞壁での炎症や損傷により、壁が厚く硬くなり（線維化）、酸素を取り込みにくい

##### 症状

無症状～息切れ・乾いた咳

##### 胸部X線やCT

両側肺野のびまん性陰影

##### 病理検査

肺間質の炎症や線維化病変

##### 原因（二次性を含む）

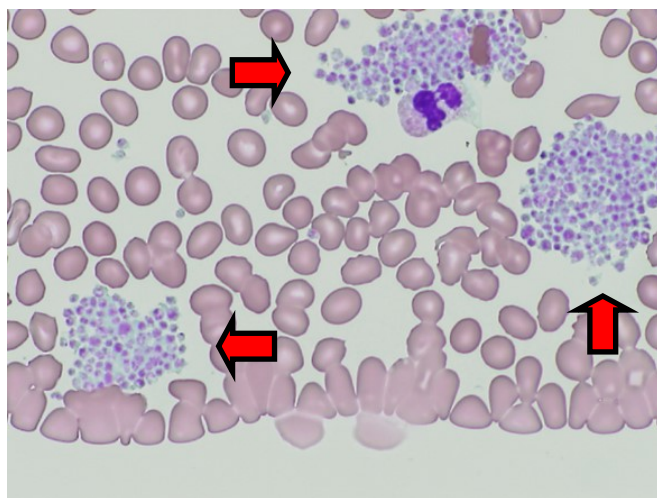
- 膠原病およびその関連疾患
  - 感染症性  
（ウイルス、ニューモシスチス、マイコプラズマ、クラミジア）
  - 職業・環境性  
（過敏性肺炎、じん肺）
  - 医原性  
（薬剤、放射線）
- \*原因がわかっていない間質性肺炎もあります。

お問い合わせ：血清検査室 内線36460

## 4. 原因不明の血小板数低値の時は、 偽性EDTA依存性血小板減少症を疑ってください

血小板が減少する原因は、主に（１）悪性造血器腫瘍などの疾患や治療による場合、（２）採血手技による場合、（３）CBCの採血管に含まれる抗凝固剤のEDTAによる場合に大別されます。この（３）を「偽性EDTA依存性血小板減少症」といいます。その機序は不明ですが、0.1%の頻度で起こります。CBCの測定結果で、PLTのコメント欄に「PLT凝+

」の表示があり、原因の解らない血小板低値の際には、本症例が疑われます。その際には、抗凝固剤としてヘパリンやクエン酸が入った採血管で採血することで、正しい血小板数を測定できます。



偽性EDTA依存性血小板減少症の末梢血液像では、  
血小板が凝集塊をつくっているのがみられます（矢印）

【ヘパリン、クエン酸入り採血管を用いたCBCのオーダー方法】  
通常検体検査 → 血液（一般・凝固・染色） → 血液一般のタブ

### ★その他の材料★

CBC（ヘパリン）

CBC（クエン酸）

システム上、CBC（ヘパリン）とCBC（クエン酸）をそれぞれ別々に  
オーダーし、確定してください（オーダー番号を別にする必要があります）。

お問い合わせ：血液検査室 内線36440

広報委員：遠藤明美、古谷大輔、近藤 崇、米澤 仁、高橋祐輔、田本悠佳